

令和7年度

中学校教育課程研究協議会【特別活動】

美濃・可茂教育事務所

日時 令和7年7月24日(木) 13:00~16:00

場所 関市立桜ヶ丘中学校 1年生徒支援室

【全体主題】

「指導と評価の一体化」を核とした授業改善・学習改善の在り方

1 日程

13:00~ 13:10 所長挨拶
13:10~ 14:00 説明及び協議Ⅰ
14:10~ 16:00 説明及び協議Ⅱ

2 当日の内容及び持ち物について

【グループ協議について】

●グループ協議Ⅰ

議題・題材を通した指導と評価の計画に係る研究協議

・年間を通して学級活動(1)、学級活動(2)、学級活動(3)をどのように計画しましたか。

●グループ協議Ⅱ

学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」の授業における工夫について研究協議

・生徒が学級での話し合いを通して、個人の目標を意思決定し、各自で実践する生徒の自主的、実践的な活動から将来につなぐ学級活動(3)にするためには、どのような授業改善・学習改善が必要ですか。それにかかわって、どのような実践をなされましたか。

※「美濃・可茂地区 中学校教育課程研究協議会 研究協議会テーマ一覧」記載

●当日の持ち物

- 1 中学校学習指導要領解説(平成29年告示) 特別活動編
- 2 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(中学校 特別活動)(国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月)
- 3 学級・学校 文化を創る 特別活動【中学校編】国立教育政策研究所 教育課程研究センター
- 4 掲載資料(美濃はHP 可茂はPlant)を印刷し、各自持参してください。
- 5 グループ協議Ⅱで用いる資料(10部)

自分の実践を説明しやすくするため、テーマに関わる実践について「指導案」、「指導と評価の計画(単元指導計画)」、「教材や実践の様子が分かる写真」などを任意の様式で持参してください。

令和7年度

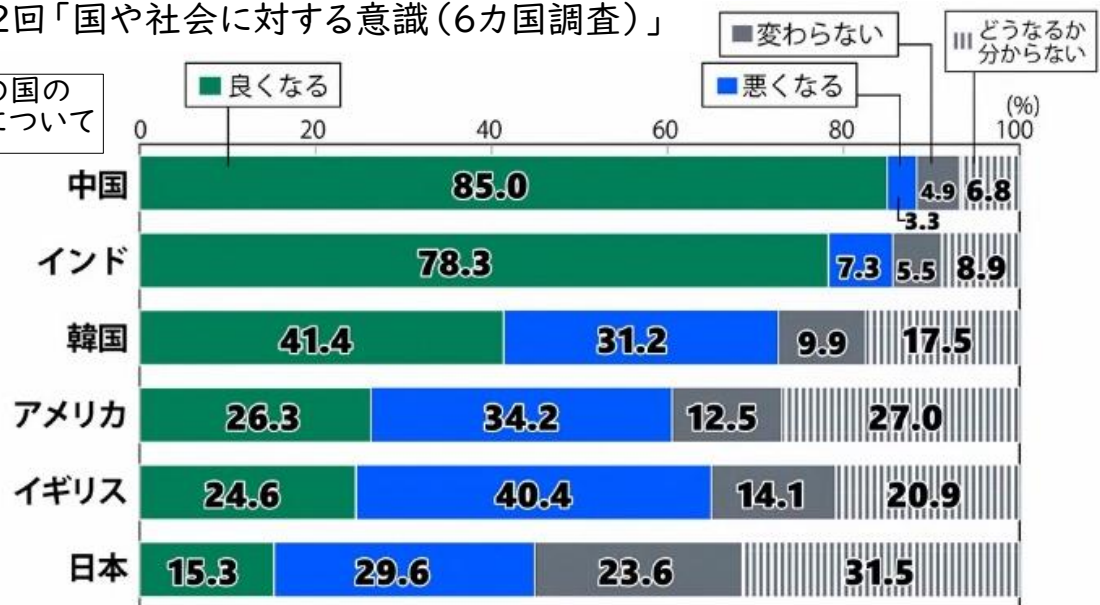
教育課程研究協議会 中学校・特別活動部会

令和7年7月24日(木)
美濃教育事務所
可茂教育事務所

1

第62回「国や社会に対する意識（6カ国調査）」

自分の国の
将来について



日本財団18歳意識調査結果 第62回「国や社会に対する意識（6カ国調査）」
<https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/pr/2024/20240403-100595.html>

2



はじめに

これまでの実践を
振り返ってみましょう



3



はじめに

項 目	チェック欄
年間指導計画に基づいて題材を設定している。	
事前アンケート等を活用して、児童の実態を的確につかんでいる。	
指導のねらい、目指す児童の姿を明確にしている。	
児童の問題意識を高めるための適切な資料を準備している。	
児童自身が問題意識をもち、課題をつかむことができるよう、事前指導や導入を工夫している。	
児童が、問題の原因や解決方法等について話し合う活動を取り入れている。	
児童は、話し合ったことを生かして、自分に合った具体的な目標を意思決定することができる。	
板書計画を立て、学習の流れが分かるように板書を構造化している。	
実践意欲を高めるがんばりカードなどを用意している。	
実践後の努力の成果を認め合えるような振り返りの場を設定している。	
児童が実践したことに対して、励ましや評価を的確に行っている。	
他教科等との関連を考えて、指導計画を立てている。	
指導の効果を上げるために、内容に応じて適切な人材を活用している。(チームティーチング)	
家庭への発信や家庭との連携の工夫をしている。	



「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(教師用指導資料)(平成30年12月)p82

4



流れ

- (1) 特別活動の意義
- (2) 学級活動(1)～(3)の内容と好事例
- (3) キャリア・パスポートの活用と事例



5



特別活動の意義

Q. 特別活動が充実すると、
どのようなよさがある
と思いますか？



6



特別活動の意義

これからの時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む

学習指導要領

（中略）一人一人の児童（生徒）が、**自分のよさや可能性**を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、**多様な人々と協働**しながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**となることができるようにすることが求められる。

第4期教育振興基本計画

<コンセプト>

- ・2040年以降の社会を見据えた、**持続可能な社会の創り手**の育成
- ・日本社会に根差した**ウェルビーイング**の向上

※**ウェルビーイング**：身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む。

7



特別活動の意義

これからの時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む

【教育に関連するウェルビーイングの要素】

自己肯定感

心身の健康

幸福感

協働性

社会貢献意識

学校や地域での
つながり

自己実現

安全安心な
環境

多様性への
理解

利他性

サポートを
受けられる環境

参考：第4期教育振興基本計画パンフレット

8



特別活動の意義

これからの時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を育む

【ウェルビーイングに関連する全国学調での項目】

○自己肯定感

- ・自分にはよいところがあると思う

○自己実現

- ・将来の夢や目標を持っている

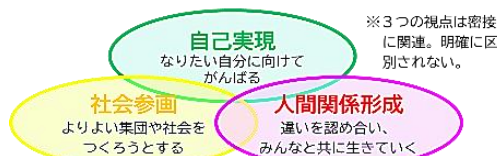
○協働性 ○多様性への理解

- ・学級をよくするために互いの意見のよさを生かして解決方法を決める

○学校や地域でのつながり

- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う

【特別活動で育成を目指す資質・能力の3つの視点】



9



特別活動において育成すべき資質・能力（全体目標）

知識及び技能	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
思考力、判断力 および表現力等	集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
学びに向かう力、 人間性等	自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を育てる。



【特別活動で育成を目指す資質・能力の3つの視点】



10



特別活動と各教科との往還について

【特別活動を通じた学校生活全体の基盤づくり】

- ・学校、学級づくり（学校文化、学級文化の形成）
- ・人間関係形成能力の育成（コミュニケーションや合意形成など）
- ・社会参画や自己実現のために必要な力



【各教科等の学びを生かした特別活動の実践】

- ・各教科等で身に付けた資質・能力を特別活動の各活動の中で生かす
- ・自己の生活や進路、キャリアに学校での学びをどう生かすのかという振り返りを行う

11



学級活動について

【特別活動の内容】

学級活動

児童会活動
生徒会活動

クラブ活動
(小のみ)

学校行事

学級活動(1)

学級活動(2)

学級活動(3)

12



学級活動について

特別活動の内容構成

学級活動	児童会活動・生徒会活動	クラブ活動(小学校)	学校行事
(1) 学級や学校における生活づくりへの参画	(1) 児童会(生徒会)の組織づくりと児童会(生徒会)活動の計画や運営	(1) クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営	(1) 儀式的行事
(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全	(2) 異年齢集団による交流	(2) クラブを楽しむ活動	(2) 文化的行事
(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現	(3) 学校行事への協力	(3) クラブの成果の発表	(3) 健康安全・体育的行事
			(4) 遠足(旅行)・集団宿泊的行事
			(5) 勤労生産・奉仕的行事

協議1

【学級活動の内容】

- ・ 小学校 10項目
- ・ 中学校 11項目



★時間をとりますので
チェックしてみましょう

(1)学級や学校における生活づくりへの参画

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

- ア 自他の個性の理解と尊重,よりよい人間関係の形成
- イ 男女相互の理解と協力
- ウ 思春期の不安や悩みの解決,性的な発達への対応
- エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

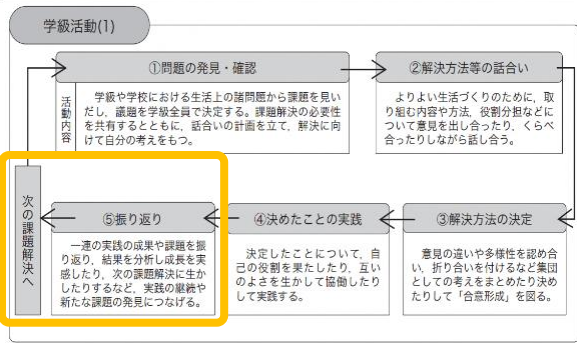
(3)一人一人のキャリア形成と自己実現

- ア 社会生活,職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
- イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業間の形成
- ウ 主体的な進路の選択と将来設計

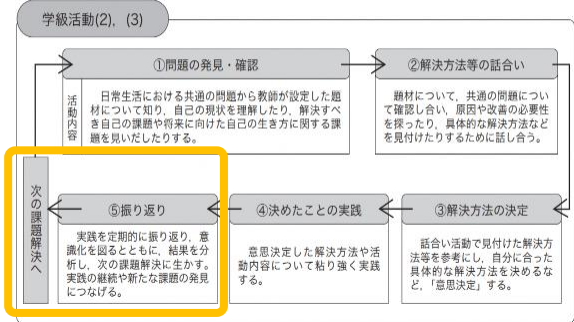


資質・能力の向上につながる学習過程の明確化

学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の学習過程(例)



学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」、
学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」の学習過程(例)



事前から事後までを見通し、
振り返りを次の課題解決に生かす



学級活動について

【特別活動の内容】

学級活動

児童会活動
生徒会活動

クラブ活動
(小学校のみ)

学校行事

学級活動(1)

学級活動(2)

学級活動(3)

15



学級活動(1)と(2)(3)の違い

	過程	議題・題材		話し合いの流れ
(1)	合意形成する話し合い活動を通して	みんなで取り組みたいこと、解決したいことなど	学級全員で「議題」を決定	○議題の確かめ ○出し合う、分類 ○くらべ合う ○まとめる(決める) ○話し合いのまとめ
(2) ・ (3)	話し合いを生かして意思決定する	一人一人の課題 ※(2)は生活上の課題 ※(3)は将来を見通した生活や学習に関する課題	教師が「題材」を設定	○つかむ ○さぐる ○見つける ○決める ○実行する

16



学級活動(1)について

学級活動(1) 合意形成

学級や学校における生活づくりへの参画

【集団における合意形成で大切にすること】

同調圧力に流されることなく、批判的思考力をもち、他者の意見も受け入れつつ自分の考えも主張できるようにすること

【合意形成のプロセスの例】

- ・新しい考えをつくる
- ・優先順位を決める
- ・少しずつ全部行う
- ・多数決を行う
- ・意見を合わせる
- ・条件を付ける
- ・共感的に理解し、譲る など

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(教師用指導資料)(平成30年12月)p52、53

17



学級活動(1)について

学級活動(1) 合意形成

学級や学校における生活づくりへの参画

単位時間

- ① 事前の指導
- ② 出し合う
- ③ くらべ合う
- ④ まとめる(合意形成)
- ⑤ 先生の話
- ⑥ 事後の指導

【一つの議題に関わる流れ】

各場面でどのような指導が必要かを確認

18



学級活動(1)について

学級活動(1) 合意形成

学級や学校における生活づくりへの参画

① 事前の指導

- 自分たちの生活から問題を見付ける。
- 計画委員会(司会グループ)を開いて、教師の適切な指導の下、議題の選定等を行う。
- 全員の了承を得た上で議題を決定する。

「望ましい議題」の条件としては、次のようなことが考えられます。

- 多くの児童が早急な解決を望んでいる議題
児童にとって話し合う必要性が高いものを選定する。
- 学級内の問題で、学級全員が協力しなければならない議題
学級の一部の児童だけに关わるようなものではなく、学級全員の問題であり、全員で協力して解決できるようなものを選定する。
- 創意工夫の余地がある議題
一人一人が力を付ければ済む問題ではなく、自分たちで創意工夫し、協力できる問題を選定するようにする。
- 学級や学校生活をよりよいものにする議題
低学年では、身の回りの出来事に関わる議題。高学年になれば、学級だけでなく学校生活を向上させるという観点から議題を選定することもできるようにする。

※「金銭の徴収」「物品の購入」「教育課程の変更」に関わることは、児童だけでは解決できないことから、議題として望ましくありません。

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(教師用指導資料)(平成30年12月)p44～49

19



学級活動(1)について

学級活動(1) 合意形成

学級や学校における生活づくりへの参画

② 出し合う



小学校特別活動映像資料 学級活動(1)の指導の工夫〈学級会編〉 <https://www.youtube.com/watch?v=0Xb1XnKG-GM>

20



学級活動(1)について

学級活動(1) 合意形成

学級や学校における生活づくりへの参画

② 出し合う

- 理由を伝えられるようにする。
- 分からないことを質問する。
- 意見を分類・整理する。

3 提案理由や話し合いのめあてに沿って発言する

学級会ノートなどに書いた自分の意見を、理由を添えて発表します。

「私は、〇〇がいいです。わけは、△△だからです。」

意見の内容は、自分の好き嫌いだけでなく、提案理由や話し合いのめあてに沿って言えるようにすることが大切です。低学年では上のような話型に沿って発言しますが、高学年では、児童の実態に応じて、話型に捉われず、根拠(理由)を明確にして自分の考えや思いを自分の言葉で説明できるように指導します。

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(教師用指導資料)(平成30年12月)p51

21



学級活動(1)について

学級活動(1) 合意形成

学級や学校における生活づくりへの参画

③ くらべ合う

- 友達の発言をよく聞く。
- 賛成や反対の理由をくらべる。

1 「くらべ合う」の内容

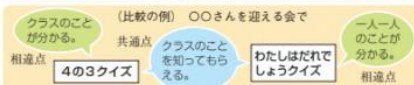
出された意見を理解する

出された意見を理解するために、質問を通して意見の内容やそこに込められている思いを確認します。意見の内容を聞き合うことが、合意形成を目指す話し合いの基礎になります。

例「〇〇さんの考えをもう一度教えてください」
「〇〇さんの意見は、△△ということですよね」など

比較し共通点や相違点を見付ける

出された意見について、提案理由を踏まえて、よりよい解決策を見つけるために、賛成意見や反対意見を述べ合います。賛成、反対の理由の確認、数の把握などをしながら、意見をしぼっていきます。それぞれの意見の違いを明確にしながら、提案理由に合ったよりよい意見にまとめていきます。大切なのは、合意形成に向かうためのプロセスです。



例「私は〇〇の意見について、△△がよいと思います。わけは□□です」
「私は〇〇さんの意見の△△のところ、□□の理由で心配です。〇〇ではどうですか」など



「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(教師用指導資料)(平成30年12月)p52、53

22



学級活動(1)について

学級活動(1) 合意形成

学級や学校における生活づくりへの参画

⑤ 先生の話

先生の話

- 発達段階や児童の実態を踏まえながら、今回の学級会でよかったことや次回への課題を話し、よりよく合意形成を図って話し合うことができるようにします。
- 司会グループへの称賛、学級全体へ実践意欲を高める声掛けなども考えられます。

- 計画委員会に対して称賛する。
- 学級会のよかった点や次への課題を確認する。
- 実践への意欲付けを行う。

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(教師用指導資料)(平成30年12月)p10、11

25



学級活動(1)について

学級活動(1) 合意形成

学級や学校における生活づくりへの参画

⑥ 事後の指導



【学級活動の足跡の揭示例】

- 役割を分担し、全員で協力して実践する。
- 互いのよかったところやがんばったところなどを伝え合う。
- ⇒好ましい人間関係を築くことができるようにする。
- ⇒次の活動に向けての意識付けをする。

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(教師用指導資料)(平成30年12月)p59

26



学級活動(1)について

学級活動(1) 合意形成

学級や学校における
生活づくりへの参画

出し合う

くらべ合う

まとめる

先生の話

学 習 活 動	
導入 (三分)	1 話合いの約束を確認する。
	2 議題を共有する。 「えがおいっぱい」のあそびをきめよう
出し合う (十二分)	【提案理由】 ・もつとえがおいっぱい2組になるように、みんな で学級まん5つを達成したお祝いしたいからで す。
	3 会の内容について意見を出し合う。 ・「ドッジボール」がいいです。ドッジボールだと「ナ イス」とか「がんばれ。」とかほかほか言葉が言える からです。 ・「けいどろ」がいいです。捕まて助けてもらった時、 「ありがとう」が言えるからです。 ○出た意見を黒板係の児童が黒板に貼りつけていく。 ○黒板係の児童が、賛成と心配の意見を視覚的に捉え やすくなるように赤と青シールを使って黒板にまと めていく。
	4 全体交流 ○賛成・心配意見を交流しながら、3～4つの遊びに 絞っていく。 ・「鬼ごっこ」は、集中狙いや挟みうちがあるかもしれ ないので心配です。 ・ドッジボールは、同じ子ばかりが投げるかもしれな いので心配です。
	5 全体交流の意見を元にして班交流を行い、さらに 遊びを決めるための最終の全体交流をする。 ・「ドッジボール」に賛成です。わけは、〇〇さんと同 じで、上手だったときは「上手いね。」とか、ほかほ か言葉が言えるからです。 ・「だるまさんころんだ」が心配です。動いちゃいけな いから、ほかほか言葉が言えないからです。 ○班交流を行い、遊びを1つ決める。
比べ合う (二十分)	6 班交流で出た意見を元に、合意形成を行う。 ・助けてもらったときに「ありがとう」をたくさん言 いたいの。「けいどろ」と「氷鬼」がいいです。 ・ほかほか言葉がたくさん言えそうなので、「ドッジボ ール」と「コンセント鬼」がいいです。 ○班で決定した2つの遊びを挙げていき、多い遊びに 決定する。

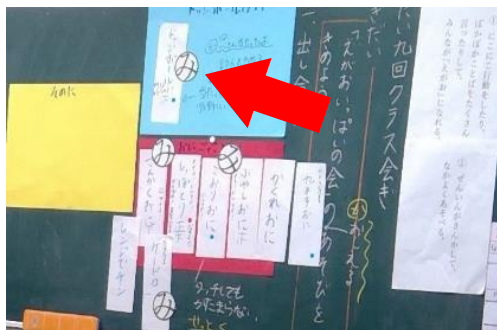


学級活動(1)について



学 習 活 動	
導入 (三分)	1 話合いの約束を確認する。
	2 議題を共有する。 「えがおいっぱい」のあそびをきめよう
出し合う (十二分)	【提案理由】 ・もつとえがおいっぱい2組になるように、みんな で学級まん5つを達成したお祝いしたいからで す。
	3 会の内容について意見を出し合う。 ・「ドッジボール」がいいです。ドッジボールだと「ナ イス」とか「がんばれ。」とかほかほか言葉が言える からです。 ・「けいどろ」がいいです。捕まて助けてもらった時、 「ありがとう」が言えるからです。 ○出た意見を黒板係の児童が黒板に貼りつけていく。 ○黒板係の児童が、賛成と心配の意見を視覚的に捉え やすくなるように赤と青シールを使って黒板にまと めていく。
	4 全体交流 ○賛成・心配意見を交流しながら、3～4つの遊びに 絞っていく。 ・「鬼ごっこ」は、集中狙いや挟みうちがあるかもしれ ないので心配です。 ・ドッジボールは、同じ子ばかりが投げるかもしれな いので心配です。
	5 全体交流の意見を元にして班交流を行い、さらに 遊びを決めるための最終の全体交流をする。 ・「ドッジボール」に賛成です。わけは、〇〇さんと同 じで、上手だったときは「上手いね。」とか、ほかほ か言葉が言えるからです。 ・「だるまさんころんだ」が心配です。動いちゃいけな いから、ほかほか言葉が言えないからです。 ○班交流を行い、遊びを1つ決める。
比べ合う (二十分)	6 班交流で出た意見を元に、合意形成を行う。 ・助けてもらったときに「ありがとう」をたくさん言 いたいの。「けいどろ」と「氷鬼」がいいです。 ・ほかほか言葉がたくさん言えそうなので、「ドッジボ ール」と「コンセント鬼」がいいです。 ○班で決定した2つの遊びを挙げていき、多い遊びに 決定する。

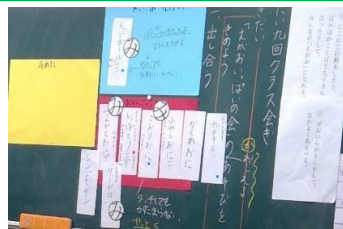
学級活動(1)について



学 習 活 動	
導入 (三分)	1 話し合いの約束を確認する。
	2 議題を共有する。 「えがおいっぱい」の会」のあそびをきめよう
出し合う (十二分)	【提案理由】 ・もつとえがおいっぱい2組になるように、みんなで学級じまん5つを達成したお祝いしたいからです。
	3 会の内容について意見を出し合う。 ・「ドッジボール」がいいです。ドッジボールだと「ナイス」とか「がんばれ。」とかほかほか言葉を言えるからです。 ・「けいどろ」がいいです。捕まて助けてもらった時、「ありがとう」が言えるからです。 ○出た意見を黒板係の児童が黒板に貼りつけていく。 ○黒板係の児童が、賛成と心配の意見を視覚的に捉えやすくなるように赤と青シールを使って黒板にまとめていく。
比べ合う (二十分)	4 全体交流 ○賛成・心配意見を交流しながら、3～4つの遊びに絞っていく。 ・「鬼ごっこ」は、集中狙いや挟みうちがあるかもしれないので心配です。 ・ドッジボールは、同じ子ばかりが投げるかもしれないので心配です。
	遊びを決めるための最終の全体交流をする。 ・「ドッジボール」に賛成です。わけは、○○さんと同じで、上手だったときは「上手いね。」とか、ほかほか言葉が言えるからです。 ・「だるまさんころんだ」が心配です。動いちゃいけないから、ほかほか言葉が言えないからです。 ○班交流を行い、遊びを1つ決める。
	6 班交流で出た意見を元に、合意形成を行う。 ・助けてもらったときに「ありがとう」をたくさん言いたいので、「けいどろ」と「氷鬼」がいいです。 ・ほかほか言葉がたくさん言えそうなので、「ドッジボール」と「コンセント鬼」がいいです。 ○班で決定した2つの遊びを挙げていき、多い遊びに決定する。

29

学級活動(1)について



学 習 活 動	
導入 (三分)	1 話し合いの約束を確認する。
	2 議題を共有する。 「えがおいっぱい」の会」のあそびをきめよう
出し合う (十二分)	【提案理由】 ・もつとえがおいっぱい2組になるように、みんなで学級じまん5つを達成したお祝いしたいからです。
	3 会の内容について意見を出し合う。 ・「ドッジボール」がいいです。ドッジボールだと「ナイス」とか「がんばれ。」とかほかほか言葉を言えるからです。 ・「けいどろ」がいいです。捕まて助けてもらった時、「ありがとう」が言えるからです。 ○出た意見を黒板係の児童が黒板に貼りつけていく。 ○黒板係の児童が、賛成と心配の意見を視覚的に捉えやすくなるように赤と青シールを使って黒板にまとめていく。
比べ合う (二十分)	4 全体交流 ○賛成・心配意見を交流しながら、3～4つの遊びに絞っていく。 ・「鬼ごっこ」は、集中狙いや挟みうちがあるかもしれないので心配です。 ・ドッジボールは、同じ子ばかりが投げるかもしれないので心配です。
	5 全体交流の意見を元にして班交流を行い、さらに遊びを決めるための最終の全体交流をする。 ・「ドッジボール」に賛成です。わけは、○○さんと同じで、上手だったときは「上手いね。」とか、ほかほか言葉が言えるからです。 ・「だるまさんころんだ」が心配です。動いちゃいけないから、ほかほか言葉が言えないからです。 ○班交流を行い、遊びを1つ決める。
	6 班交流で出た意見を元に、合意形成を行う。 ・助けてもらったときに「ありがとう」をたくさん言いたいので、「けいどろ」と「氷鬼」がいいです。 ・ほかほか言葉がたくさん言えそうなので、「ドッジボール」と「コンセント鬼」がいいです。 ○班で決定した2つの遊びを挙げていき、多い遊びに決定する。

30

休憩・・・



31



学級活動(3)について

学級活動(3) **意思決定**

一人一人のキャリア形成と自己実現

【**意思決定**とは】

ある目標達成のために、様々な手段を考察、分析し、その中の一つを選択決定すること

【学級活動(3)における**意思決定**とは】

個々の児童の将来に向けた自己実現に関わるもので、一人一人の主体的な意思決定に基づく実践にまでつなげることをねらいとしている。

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」「(教師用指導資料)(平成30年12月)p82

32



学級活動(3)について

学級活動(3) 意思決定

一人一人のキャリア形成と自己実現

単位時間

① 事前の指導

② つかむ

③ さぐる

④ 見つける

⑤ 決める(意思決定)

⑥ 事後の指導

【一つの題材に関わる流れ】

各場面でどのような指導が必要かを確認

33



学級活動(3)について

学級活動(3) 意思決定

一人一人のキャリア形成と自己実現

① 事前の指導

事前のアンケート

中学校生活に向けて

- どんな中学生になりたいですか。
- 楽しみにしていることは何ですか。
- 不安なことは何ですか。
- 小学校のどのような経験を生かしたいですか。
- 自分のよさを、どのようなことに生かしてみたいですか。

○ポートフォリオ的な教材(キャリア・パスポート)や事前アンケート等を活用して、学級や児童の実態を的確につかむ。

○児童一人一人の思いや考えを事前に調査する。

⇒児童が自己の課題として、真剣に目標や達成方法などを意思決定できるような題材かを検討する。

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(教師用指導資料)(平成30年12月)p16、17

34

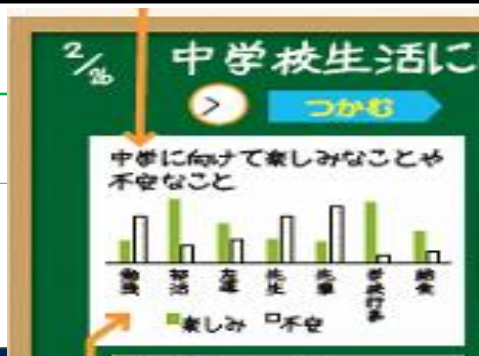


学級活動(3)について

学級活動(3) 意思決定

一人一人のキャリア形成と自己実現

② つかむ



- アンケート結果等を可視化する。
- 指示の仕方を工夫する。
- 気付いたことを話し合い、自分事として捉えられるようにする。

小学校特別活動映像資料 学級活動(3)の指導の工夫 https://www.youtube.com/watch?v=_TUtI-GTDYA

35



学級活動(3)について

学級活動(3) 意思決定

一人一人のキャリア形成と自己実現

③ さぐる



- 「キャリア・パスポート」などを活用し、これまでの自分を振り返る。
- 自分の成長や頑張りに気付く。
- なりたい自分の姿を明確にする。

小学校特別活動映像資料 学級活動(3)の指導の工夫 https://www.youtube.com/watch?v=_TUtI-GTDYA

36



学級活動(3)について

学級活動(3) 意思決定

一人一人のキャリア形成と自己実現

④ 見つける

見つける

なりたい中学生に向けて、今から取り組むことを、友達のことを参考にたくさん見つけよう。

今から取り組むこと

学級行事

- ・体育祭で活躍するために、ねばり強さを生かして、毎日運動する。
- ・合唱祭でみんなと1台歌にするために、音楽の授業をがんばる。

部活動

- ・部活動で活躍するために、クラブ活動や習い事を一生けん命にやる。

学習

- ・得意な科目をさらに伸ばせるように、読書を続けていく。

- 実践の内容や方法について話し合う。
- 出された考えを分類・整理する。
- 多様な考えを共有し、発想を広げる。

小学校特別活動映像資料 学級活動(3)の指導の工夫 https://www.youtube.com/watch?v=_TUtI-GTDYA

37



学級活動(3)について

学級活動(3) 意思決定

一人一人のキャリア形成と自己実現



小学校特別活動映像資料 学級活動(3)の指導の工夫 https://www.youtube.com/watch?v=_TUtI-GTDYA

38

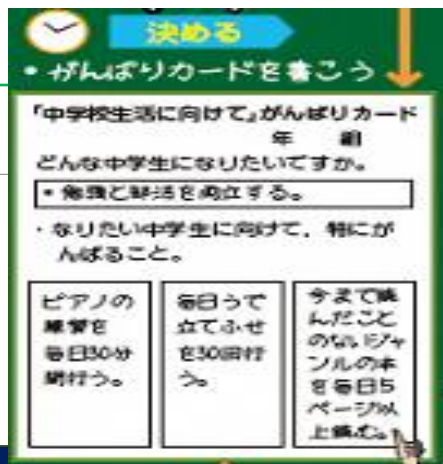


学級活動(3)について

学級活動(3) 意思決定

一人一人のキャリア形成と自己実現

⑤ 決める(意思決定)



- 自分に合った具体的な目標を決める。
- 実践への強い意欲をもてるようにする。

小学校特別活動映像資料 学級活動(3)の指導の工夫 https://www.youtube.com/watch?v=_TUtI-GTDYA

39



学級活動(3)について

学級活動(3) 意思決定

一人一人のキャリア形成と自己実現

⑥ 事後の指導

- 児童同士の感想を共有する。
- 教師による励ましや評価を伝える。
- ⇒児童一人一人が前向きに考えられるようになり、次の課題解決への意欲につながるようにする。



「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(教師用指導資料)(平成30年12月)p16、17

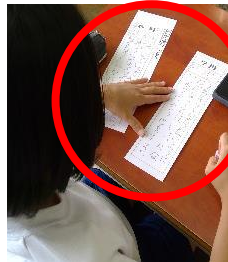
40

5月 6月

項目	5月	6月
勉強	高	低
学習	高	低
仲間	高	低
あいさつ	低	高
そうじ	低	高
聞く・はんのう	低	高
時どく	低	低
けじめ	低	低

休み時間
掃除
注意
すみ
最後
切替
間隔
けじめ
集中
ゴキ

A photograph showing a group of students in a classroom. A large red arrow is superimposed on the image, pointing towards the students. The students are gathered around a table, and one student is using a laptop. The students are wearing white shirts and dark skirts or trousers. The classroom has wooden floors and desks.



学級活動(3) キャリア・パスポートの効果的な活用

議題：「小学校最後の〇〇スポーツフェスティバルについて考えよう」

(3) ア:現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

5年次A児の キャリア・パスポート

- 過去

過去

5年次から今までのA児の キャリア・パスポート

- ① 係活動に責任をもち、取り組んだり、学級をよりよくするために、思いを大切に進んで取り組む。
- ② 校外学習や行事など、みんなで一つのことに、協力し、頑張る楽しさを実感した。
- ③ 地域の方に進んで挨拶をすることは気持ちがいい。地域の一員として、進んで挨拶をすることを仲間を広めていきたい。

現在

6年生A児のキャリア・パスポート

- ① 下級生の手本になりたい。
- ② 今年も本校の行事に積極的に参加し、活動の中心メンバーとして活躍したい。
- ③ 地域・学校・家庭と協力して、地域に貢献する学生のように、(憧れる自己のイメージの獲得)自分から手伝えることは声をかけて仕事をしたい。(勤労を重んじて目標に向かって努力する態度の育成)

未来



学級活動(3) キャリア・パスポートの活用



2年生になったよ

年度初め・振り返り

じぶんのよいところ・すきなところ

ずきなこと・くいなこと

いま がんばっていること

しようなのゆめ

にが おえ・しゃん

こんな2年生になりたい!

学しゅう

生かつ

先生から

おうちのから

学習 小学校 中学校

3年生の学びをふり返りましょう

() 組 () 名前 ()

1 あなたのじゆ業の様子をふり返りましょう。



「大へんよくできました!」
と思う教科は何ですか。



「よくできました!」
と思う教科は何ですか。



「もっとがんばろう」
と思う教科は何ですか。

2 ふり返りを今後につなげましょう。

① 学校のじゆ業を通して、できるようになったことは何ですか。
(目標の〇〇が分かりました。国語の△△ができました。)

② 「その会の時間」に、「取り組んだこと」「がんばったこと」は何ですか。
(川にすむ生き物をたくさんしらべることができました。)

③ 学校のじゆ業以外で、勉強したことや、できるようになったことは 何ですか。
(書道教室で、3級に合格しました。テニスでサーブができるようになりました。)

④ これからがんばりたいことや、もっとがんばりたいことは何ですか。
(社会の〇〇をがんばりたいです。理科の△△をもっと知りたいです。)

ふるさと小学校5年生

「ふるさと岐阜」みんなのためにできること

5年 組 名前 ()

1 自分が地いきの行事(祭り・イベント・ボランティア活動等)に参加して楽しかったこととその行事の中で自分にできそうな仕事(役わり・係)ややってみたい仕事を書きましょう。

口楽しかったこと

口できそうな(やってみたい)仕事

2 地いきの行事に参加した時に会った方に、その行事への思いを聞いてみましょう。どうして参加しているのか、一番の楽しみは何か、これからどうしていきたいかなどを聞いて、自分が考えたことを書きましょう。

口地いきの行事に参加している方のお話(インタビューしたことを記入しよう)



口私が考えたこと(自分の考えを記入しよう)



() から

参考：岐阜県教育委員会ホームページ



学級活動(3) キャリア・パスポートの活用

岐阜県外国人児童生徒キャリア支援事業

外国人児童生徒のための
キャリアガイドブック



令和6年3月

岐阜県教育委員会 義務教育課

外国人児童生徒のための キャリアガイドブック



<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/392925.pdf>

参考：岐阜県教育委員会ホームページ



学級活動(3) キャリア・パスポートの活用

- ①児童生徒自らが記録し、**学期、学年、入学から卒業までの学習を見通し**、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする。
- ②**学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む**内容とする。
- ③**学年、校種を越えて持ち上がる**ことができるものとする。
- ④**大人（家族や教師、地域住民など）が対話的に関わる**ことができるものとする。
- ⑤**詳しい説明がなくても児童生徒が記述できる**ものとする。
- ⑥学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合には、その**内容及び実施時間数にふさわしいもの**とすること。

平成31年3月29日 文部科学省より

45



「キャリア・パスポート」の学年・校種間の引継ぎ

- ①「キャリア・パスポート」の**学年間の引継ぎは、原則、教師間で行うこと**としている。
校種間の引継ぎは、原則、児童生徒を通じて行うこととしているので留意すること。
- ②小・中学校においては、**進学先への確実な引継ぎに留意**すること。特に中学校から高等学校への引継ぎなど、学校設置者が異なる学校へ引継ぎの場合は、特に配慮を要すること。
- ③高等学校に進学しない中学生においては、**確実に本人に返却**すること。

令和3年2月19日 文部科学省より

46



ワークショップの流れ

協議2

学級活動(3)について

①どのような指導改善・学習改善が必要か

②どのような実践をしてきたか



47



本時の活動

	目的	議題（題材）		話し合いの流れ
(1)	合意形成	・ <u>みんなで</u> 取り組みたいこと、解決したいことなど	<u>学級全員で</u> 「議題」を決定	○議題の確かめ ○出し合う ○くらべ合う ○まとめる（決める） ○話し合いのまとめ
(2) ・ (3)	意思決定	・ <u>一人一人</u> の課題 ※（2）は生活上の課題 ※（3）は将来を見通した生活や学習に関する課題	<u>教師が</u> 「題材」を設定	○つかむ ○さぐる ○見つける ○決める ○実行する

48



題材「学ぶことと働くことの意義」

例えばこのような実態がありませんか？

- 職場体験活動の報告会の視点が「**現在**」に偏っていて、過去・現在・未来という視点で捉えることができていない。
- 「**キャリア・パスポート**」を活用して、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする活動が十分にできていない。

49



題材「学ぶことと働くことの意義」

このような生徒や学級を目指して

- 職場体験活動などの勤労観・職業観に関わる啓発的な体験は、生徒の心を育て、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を育む機会になるとともに、学級はもとより学年や全校の集団を育成し、よりよい人間関係を形成する上でも効果的な場となる。

50



題材「学ぶことと働くことの意義」

このような生徒や学級を目指して

- 「**キャリア・パスポート**」を活用することで、生徒は自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ることができるようにし、**過去から未来への広い時間軸で体験を捉えられるようになることを目指す。**



本時の話し合い活動

学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 / 題材「学ぶことと働くことの意義」

事前の活動

事後の活動

「人は何のために働くのか」について考え、学ぶことと働くことの意義を認識するとともに、自分の生涯に生かすことを考えることができる。

つかむ

さぐる

見つける

決める

【問題意識を高める事前指導】
事前に題材を提示しておいたりアンケートを実施したりして、児童生徒一人一人が題材について自分事としてとらえられるようにします。また、児童生徒の実態に即した指導展開にするために、アンケート結果などを生かした指導計画となるようにします。

【事前の題材提示は？】
指導する課題「めあて」を「いつ」「どのように」児童生徒に知らせるか？

【事前調査をどのように行う？】
題材に対する学級の現状は？
児童生徒一人一人の思いや考えは？
題材に関わる方の様子はどう？
キャリアパスポートをどのように活用するか？

【事後の活動】
【目標実現への意欲を高める事後指導】
児童生徒同士の話し合いや教師の励ましなどが、児童生徒一人一人の目標実現への意欲を高め、児童生徒の自主的な取組は「自分もやればできる」「がんばってよかった」などの自己効力感や自己肯定感の高まりにもつながります。

【課題の把握】
題材を自分事としてとらえ、自分と今のつながりや学習する意義などについての課題をつかみます。

【可能性への気づきで課題の発見】
これまでの自分を振り返り、「なりたいたい自分」について自分の思いをもち、よさや可能性をさぐります。

【解決方法等の話し合い】
みんなで「なりたいたい自分」を達成するためにできることなどを話し合っていきます。

【個人目標の意思決定】
なりたいたい自分になるために、自分に合った具体的な個人目標（内容や方法など）を決め、実行への強い決意をもちます。

【決めたことをどのように実践するか？】
意思決定したことをどのように実践し記録するか？

・ 一人一人のキャリア・パスポートを機能し、1週間「やりぬくこと」をグループ内で共有し、励みの会に見届けます。

【振り返りを行う】
振り返りを行う。グループの振り返りでは、個人の取組に対して、グループの仲間から励みや成長を伝えられるように指導する。各 仲間からの評価を基に個人で振り返られるように指導を行う。

意思決定

一般的に、意思決定とは、ある目標達成のために諸手段を考察、分析し、その一つを選択決定する人間の認知的活動とされています。学級活動(2)・(3)では、児童は学級での話し合いを通して、共通する課題を見だし、多様な視点から解決方法を見付け、自己の具体的な実践課題を決め、粘り強く努力します。本時において児童生徒一人一人が自分が合った具体的な実践目標を意思決定することができるようにするとともに、児童生徒が決めたことを実践して振り返り、自ら改善するための事後指導が必要です。

「みんなとて、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動」(中学校編) 本時指導案 社会参画意識の醸成 職業観・勤労観の形成 児童生徒のキャリア形成と自己実現 実践指導資料センター発行(指導資料を参考・活用しています)。

52

26



学級活動(3)の指導案を作ろう

まとめ

これまで経験してきたことや、できるようになったことを確認するとともに、自己のよさや可能性を伸ばし、将来に向けた自己実現を図るために、**一人一人の主体的な意思決定を大切にする話し合い活動**の実践を積み重ねましょう。

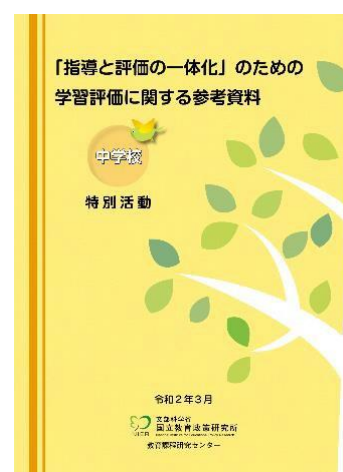


53



参考資料

- ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）特別活動編
- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校）
- ・ 学校文化を創る特別活動【中学校・高等学校編】令和5年5月
- ・ 小学校特別活動映像資料 国立教育政策研究所 教育課程研究センター（令和4年3月）



54